

2019～2023年度のモニタリング評価結果の変遷一覧

注1：2019年度は、過年度の調査結果が存在する指標については概ね過去3年度分（2016～2018年度）の調査結果を、さらに古い調査結果が存在する指標では、それらも併せて収集した。

注2：2022年9月改訂のモニタリング計画で追加された指標。

注3：実施主体は、実態に合わせて変更する場合がある。

カテゴリー	番号	モニタリング指標	調査項目	実施主体 <sup>注3</sup>	調査対象地域				評価結果の変遷（2019～2023年度） <sup>注1</sup>																			
					奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島	奄美大島					徳之島					沖縄島北部					西表島				
									2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023
1. 遺産価値を表す固有種・絶滅危惧種が維持されていること																												
(1) 種の保全状況	1	アマミノクロウサギの生息状況	ルートセンサスに基づく糞粒数	沖縄奄美自然環境事務所	○	○			A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A								
	2	オオトラツグミの生息状況	一斉調査に基づいた目視と鳴き声による発見個体数	沖縄奄美自然環境事務所、奄美野鳥の会	○				A	A	A	A	A															
	3	ヤンバルクイナの生息状況	プレイバック調査に基づく分布範囲及び推定個体数	沖縄奄美自然環境事務所			○											A	A	A	A	A						
	4	ノグチゲラの生息状況	プレイバック調査に基づく分布範囲	沖縄奄美自然環境事務所			○											未	未	未	未	A						
	5	カエル類の生息状況	ルートセンサスに基づく個体発見頻度	沖縄奄美自然環境事務所			○											A	A	A	A	A						
	6	イリオモテヤマネコの生息状況	センサーカメラデータに基づく複数の固定サイトにおける定住個体の有無	沖縄奄美自然環境事務所、林野庁九州森林管理局				○															A	A	A	A		
	7	カンムリワシの生息状況	ルートセンサスに基づく個体発見数	沖縄奄美自然環境事務所、Island Ecosystem Research				○															A	A	A	A		
(1) 種の保全状況	8	遺産価値を表す種全体の生息・生育状況	① センサーカメラデータ及び巡視、パトロール、分布調査等における希少動物の発見地点情報	沖縄奄美自然環境事務所、林野庁九州森林管理局	○	○	○	○	未	未	未	未	準	未	未	未	未	準	未	未	未	未	準	未	未	未	未	準
			② 巡視、パトロール、分布調査等における希少植物の発見地点情報	沖縄奄美自然環境事務所、林野庁九州森林管理局	○	○	○	○	未	未	未	未	準	未	未	未	未	準	未	未	未	未	準	未	未	未	未	準
			③ 遺産価値を表す種のうち、専門家意見に基づいて抽出された主要な種のレッドリストランクの変化	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○	A						A					A					A			
(2) 生息・生育環境の保全状況	9	森林全体の面的な変動	① 衛星画像	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
			② 無人航空機（UAV）画像	林野庁九州森林管理局			○	○																				
(2) 生息・生育環境の保全状況	10	主要生息環境の変動	① 定点カメラによる景観写真	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○	未	未	未	未		未	未	未	未		未	未	未	未		未	未	未	未	
			② 森林生態系保護地域内のモニタリング <sup>注2</sup>	林野庁九州森林管理局	○	○	○	○																				B

カテゴリー	番号	モニタリング指標	調査項目	実施主体 <sup>注3</sup>	調査対象地域				評価結果の変遷（2019～2023年度） <sup>注1</sup>																					
					奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島	奄美大島					徳之島					沖縄島北部					西表島						
									2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023		
2. 遺産価値を表す固有種・絶滅危惧種への人為影響が低減／過去の影響が改善されていること																														
（1） 然個体の非自	11	交通事故の発生状況	アマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、ケナガネズミ、イリオモテヤマネコの交通事故確認件数	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	A	B	B	B	B	B	B		
	12	外来種による捕殺状況	アマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、ケナガネズミ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコのイヌ・ネコによる捕殺被害確認件数	沖縄奄美自然環境事務所、NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄、国立環境研究所	○	○	○	○	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	/	未	A	S	S	
（2） 獲・個体の採取	13	動植物の密猟・密輸に関する情報の収集	① 密猟・密輸及びその疑いのある事案（違法採集や持ち出し等）の発生件数	奄美群島地域における希少な野生動植物の密猟・密輸対策連絡会議、沖縄地域における希少な野生動植物の密猟・密輸対策連絡会議	○	○	○	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未		
			② 動物を採集するための捕獲器等の数	沖縄奄美自然環境事務所、沖縄県自然保護課	○	○	○	○	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	未	未	未	未	未	
3. 脅威となる外来種が減少していること																														
（1） 息・侵略的状況等 外来種の生	14	フィリマングースの生息状況	マングースの生息密度、分布範囲	沖縄奄美自然環境事務所、沖縄県自然保護課	○		○		S	S	S	S	S	/	/	/	/	/	/	A	A	A	A	A	/	/	/	/		
	15	ネコの生息状況及び飼養状況	① 遺産地域・緩衝地帯におけるネコの生息状況	沖縄奄美自然環境事務所、沖縄県自然保護課	○	○	○	○	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	/	/	/	S	S	S
			② 飼い猫の管理状況	奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、徳之島町、天城町、伊仙町、国頭村、大宜味村、東村、竹富町	○	○	○	○	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	未	B	B	B	B
	16	外来種の侵入状況	① 遺産地域・緩衝地帯で発見された外来種の数・地点情報など	沖縄奄美自然環境事務所、林野庁九州森林管理局、鹿児島県、沖縄県、各市町村、地域住民	○	○	○	○	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
② 周辺管理地域における外来種の数・地点情報など			沖縄奄美自然環境事務所、林野庁九州森林管理局、鹿児島県、沖縄県、各市町村、地域住民	○	○	○	○	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	

カテゴリー	番号	モニタリング指標	調査項目	実施主体 <sup>注3</sup>	調査対象地域				評価結果の変遷 (2019~2023年度) <sup>注1</sup>																								
					奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島	奄美大島					徳之島					沖縄島北部					西表島									
									2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023					
4. 遺産地域や周辺の観光利用が持続可能な方法で行われていること																																	
(1) 観光利用の状況	17	エコツーリズムを含む観光利用の状況	① 鳥別の入込者数・入域者数 (観光統計)	鹿児島県大島支庁総務企画課、竹富町世界遺産推進室	○	○		○	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	/	/	/	/	/	A	A	A	A	A			
			② 宿泊施設の収容可能人数 ※宿泊施設の収容可能人数の実態を把握し、様々な施策を検討する際の基礎的な情報を収集するためのモニタリングとして設定	鹿児島県大島支庁、沖縄県観光政策課、竹富町、一般社団法人奄美群島観光物産協会	○	○	○	○	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	
			③ 沖縄島北部の入込者数 (全国道路・街路交通情勢調査)	内閣府沖縄総合事務局					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	A						A						
			④ 自然環境観光施設の利用者数 ※自然環境観光施設の利用者数の実態を把握し、様々な施策を検討する際の基礎的な情報を収集するためのモニタリングとして設定	沖縄奄美自然環境事務所、鹿児島県、奄美市、大和村、龍郷町、天城町、国頭村、大宜味村、東村	○	○	○	○	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	
			⑤ エコツアーガイド登録者数・保全利用協定締結事業者数	奄美大島エコツアーガイド連絡協議会、徳之島エコツアーガイド連絡協議会、奄美群島エコツーリズム推進協議会、沖縄県自然保護課、国頭村、大宜味村、東村、竹富町	○	○	○	○	A	A	A	A	A	A	A	A	A	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	A	A	
			⑥ 主要なエコツアー利用場所の利用者数	沖縄奄美自然環境事務所、林野庁九州森林管理局、鹿児島県、大和村、宇検村、国頭村、大宜味村、東村、竹富町	○	○	○	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	
			⑦ 島内の各エコツアー利用場所の利用状況	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	
(2) 観光環境負荷	18	エコツアー利用場所の環境変化	① 定点カメラデータに基づくエコツアー利用場所の景観	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○		A	A	A	A			A	A	A		A	A	A	A	A	A	A		A	A				
			② 主要なエコツアー利用場所等における定点モニタリング調査の実施	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○		A	A	A	未			A	A	A		A	A	A	未	A	A		A	A		A	A		

カテゴリー	番号	モニタリング指標	調査項目	実施主体 <sup>注3</sup>	調査対象地域				評価結果の変遷 (2019~2023年度) <sup>注1</sup>																				
					奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島	奄美大島					徳之島					沖縄島北部					西表島					
									2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023	
<b>5. 気候変動や災害の影響又はその予兆が早期に把握されていること</b>																													
気象変化と植物相の	9	森林全体の面的な変動	① 衛星画像	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
			② 無人航空機 (UAV) 画像	林野庁九州森林管理局																									
	19	モデル地域における森林及び植生の変化	① 遺産地域内の固定調査サイトにおける木本類の種数、種構成、地上部炭素現存量、林床と低木層の被度	環境省生物多様性センター	○				A	A											A	A	A		A		未		
			② 陸域植生に関するモニタリング	国立環境研究所、鹿児島大学、琉球大学	○	○	○	○		A													未						
動物相の	20	動物相及び主要生息環境の変化	遺産地域内の固定調査サイトにおける鳥類の種数、種構成、バイオマス	環境省生物多様性センター	○				A	A	A	A	A								A	A	A	A	A	A	A	A	
動物相の	10	主要生息環境の変動	① 定点カメラによる景観写真	沖縄奄美自然環境事務所	○	○	○	○	未	未	未	未		未	未	未	未				未	未	未	未		未	未	未	未

その他					
上記に関わらず、多くの地域住民の参画によりモニタリング (通報等) ができる体制 (連絡窓口) を整備。	沖縄奄美自然環境事務所、地域住民	○	○	○	○

## 調査結果の凡例

S	遺産価値への悪影響又はそのおそれはなく、遺産価値の継続的な強化が期待される。
A	遺産価値への悪影響又はそのおそれがない。又は、現在、遺産価値に軽微な悪影響又はそのおそれが認められるが、現行の取組で改善していける見込みがある。
B	現在、遺産価値に一定の悪影響又はそのおそれが認められ、現行の取組で改善していける可能性があるものの、保全・管理に関する事業計画等を見直すことが望まれる。なお、関連する事業計画等が存在しない場合には、策定が求められる。
C	現在、遺産価値に一定以上の悪影響又はそのおそれが認められており、かつ現行の取組では改善していける見込みがなく、将来的に遺産価値を損なうおそれがあるため、保全・管理に関する事業計画等を大幅に見直す必要がある。なお、関連する事業計画等が存在しない場合には、策定が強く求められる。
未	未評価。適切な評価のためには、今後のデータの蓄積を待つ必要がある等の理由から、査定を保留するもの。
【 】	定量的評価結果を表す。
外	評価対象外。様々な施策を検討する際の基礎的な情報を収集するためのモニタリングと設定したため評価の対象としないもの。
/	当該指標について調査対象外であることを示す。
灰色網掛け	当該指標について評価周期の対象年度ではないことを示す。
準	準備中。令和5（2023）年10月時点でデータ整理中等のものであり、科学委員会後に別途委員照会・評価するものを示す。